

いつ起こるか分からない地震に備えて

地震から身を守る

問い合わせ 総務グループ (☎85)1130

平成26年7月8日18時5分ごろ、石狩地方南部を震源とする地震が発生し、白老町で震度5弱、登別市で震度3を記録しました。
地震はいつ起こるか分かりません。
被害を最小限に抑えるために日頃から地震や災害に備え、災害時には自分で身の安全を守るとともに、地域ぐるみで助け合うことが大切です。

地震発生時の行動指針

大きい地震が発生

揺れ到達の数秒
～数十秒前

揺れ到達

緊急地震速報

※震源に近い地域では緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります。

- 最大震度5弱以上が想定される場合、テレビやラジオ、携帯電話などを通じて緊急地震速報が発表されます。
- 速報発表から強い揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒です。
- 自分の身（特に頭）を守るため、速報を最大限に活用しましょう。

余震に注意

発生直後	<ul style="list-style-type: none"> 頭を隠すなど、自分の身を守る 津波や崖崩れの恐れがあるときは、直ちに避難する
1～2分	<ul style="list-style-type: none"> コンロの火を消し、ガスの元栓を閉める 家族の安全を確認する ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する
3分	<ul style="list-style-type: none"> 靴を履き、ガラスの破片などから足を守る 非常持出品を手近に用意する
5分	<ul style="list-style-type: none"> ラジオなどで情報を入手し確認する 家屋倒壊などの恐れがあるときは避難する 離れた家族の安否を確認する
10分	<ul style="list-style-type: none"> 再度火の元を点検する 隣近所の安全を確認する 隣近所で協力して消火・救出活動をする
～3日くらい	<ul style="list-style-type: none"> 生活必需品は備蓄で買う 災害情報、被害情報を収集する 壊れた家には入らない 引き続き余震に警戒する
避難生活では	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活のルールを守る 助け合いの心を持つ



シェイクアウト ～地震発生時の安全確保行動～

地震発生時には激しい揺れに襲われ、何かが落下してくるかもしれません。そのようなときに身を守る行動が『シェイクアウト』です。いざというときに備え、自宅や職場、町内会などで日頃から訓練しておきましょう。

●地震が起きたら

- 室内にいるとき：その場でシェイクアウトを実施しましょう。
- 屋外にいるとき：建物、木、電柱や電線から離れた場所を探し、そこでシェイクアウトを実施しましょう。

シェイクアウトの手順



大きな揺れを感じたとき～こんな場所で地震に遭ったら～

■屋内にいた場合

自宅では

- ・テーブルやベッドの下などにもぐって身を守る。
- ・調理中は、すぐに火を消す。台所は食器棚や冷蔵庫など危険な物が多いため、できるだけ早く離れる。



集合住宅では

- ・ドアや窓を開けて逃げ道を確認する。
- ・避難にエレベーターは絶対に使用しない。



デパート・スーパーでは

- ・商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意する。柱や壁際に身を寄せ、手荷物で頭を守る。
- ・あわてて出口に殺到するとパニック状態になることもあり危険。店員の指示に従って行動する。



職場では

- ・窓際やロッカー、資料棚などから離れて、机の下などに入り身を守る。
- ・揺れが収まったらガス湯沸かし器のスイッチを切るなど、火元を確認する。



学校では

- ・先生や校内放送の指示に従う。
- ・教室にいるときは、すぐ机の下にもぐり、机の脚をしつかりつかむ。
- ・本棚や窓から離れ、安全な場所に移動する。



エレベーターの中では

- ・最近のエレベーターは、地震の揺れを感じると自動的に最寄りの階に停止するので、そこで降りる。自動で停止しない場合は、全ての階のボタンを押し、停止した階で外に出る。
- ・万が一閉じ込められた場合は、非常ボタンやインターホンで外部と連絡を取り、救出を待つ。

海岸・崖の近くでは

- ・海岸にいた場合、直ちに高台や近隣の高い建物、指定の避難場所へ避難する。
- ・崖の近くにあった場合、崩れる危険のある場所からすぐに離れる。

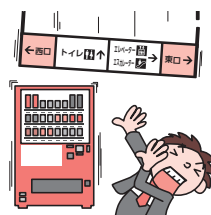


車の運転中は

- ・急ブレーキは事故の原因となるため、徐々にスピードを落とし、道路の左側に停止してエンジンを切る。
- ・揺れが収まるまでは、車外に出ず、カーラジオなどで情報を確認する。
- ・車を離れるときは貴重品を持ち、鍵は付けたままでロックもしない。

駅のホームでは

- ・掲示板や看板などの落下物に注意する。
- ・改札口に殺到するとパニックになるため、大きな揺れが収まるまで近くの柱に寄り添い、アナウンスに従い落ち着いて行動する。



電車やバスの中では

- ・急停車に備え、つり革や手すりにしつかりつかまる。
- ・棚からの物の落下に備え、手荷物などで頭を保護する。
- ・勝手に車外に出たり、窓から飛び出したりせず、係員の指示に従い、落ち着いて行動する。



■屋外にいた場合

路上では

- ・手荷物などで頭を守り、広場などへ移動する。
- ・繁華街では、ガラスや看板などの落下物、自動販売機の転倒に注意する。住宅街ではブロック塀や門柱から離れる。
- ・橋の上にいる場合は、すぐに避難する。

地震対策～家族との連絡方法を確認する～

電話会社が震度6弱以上の地震発生時などに提供するサービス

■ 災害用伝言ダイヤル 『171』

固定電話の番号を使い、音声で安否情報を登録できます。

利用方法

伝言の録音方法	伝言の再生方法
171にダイヤル	171にダイヤル
ガイダンスが流れます	ガイダンスが流れます
録音の場合 1	再生の場合 2
固定電話の番号を入力	固定電話の番号を入力

インターネット

ネットを経由して伝言板サイトにアクセスし、固定または携帯電話の番号を使い、安否情報を文字で登録できます。

■ 携帯電話の災害用伝言板

携帯電話の番号を使い、文字で安否情報を登録できます。

携帯電話各社サイト
トップメニューにアクセス

『災害用伝言板』を開く

『登録』を
選択


『確認』を
選択

状態・コメントを入力

確認したい人の携帯番号を入力

■ 災害用音声お届けサービス

音声メッセージを、パケット通信により送信・保存できます。主にスマートフォンからの利用が想定されています。

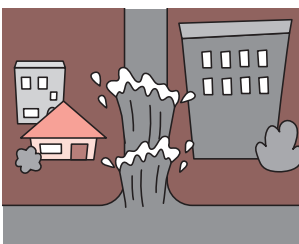


津波対策～津波の危険性を理解する～

■ 知っておきたい津波の特徴

川をさかのぼる

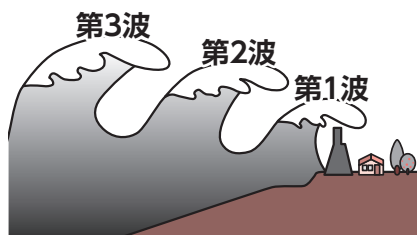
東日本大震災では、岩手県と宮城県を流れる北上川を津波が約50キロもさかのぼっていたことが確認されました。沿岸部に限らず、河川の周辺でも津波に対する警戒が必要です。



繰り返し押し寄せる

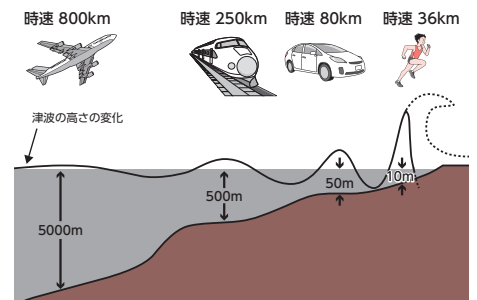
津波は反射を繰り返して第2波、第3波と何度も沿岸に押し寄せます。陸で反射した津波が予期しない海岸に押し寄せ、被害をもたらすこともあります。

また、津波は第1波が最大であるとは限りません。最初の波が小さいからといって、安心して自宅などに戻るのは極めて危険です。



深海ではジェット機並みのスピードで進む

津波の速さは海底の深さに応じて変化し、深い場所では速く、浅くなるにしたがって遅くなります。5千メートルの深海では時速800キロと、ジェット機並みのスピードで進みます。水深10メートルでは時速36キロまで減速しますが、それでも陸上短距離の世界記録並みのスピードです。



市や防災関係機関の取り組み

■登別ガス協同組合による『災害用LPガスバルク』の設置

料理を作る ～ガスコンロ～



避難者への温かい食事・乳児へのミルクなどの提供が可能

電気を作る ～ガス発電機～



夜間の照明や情報収集のためのテレビ、携帯電話の充電が可能

身体を温める ～ガストーブ～



ガストーブ、ガスファンヒーターで冬季の災害にも対応が可能

お湯を作る ～ガス給湯器～



ガス発電機とガス給湯器を組み合わせ、お湯をつくる事が可能

■きっかけは大規模停電

平成24年11月に市内で起きた大規模停電をきっかけに、エネルギーの備蓄を見直すことにしました。

電気、都市ガス、ガソリン、灯油の備蓄は容易にできませんが、『LPガス』は備蓄ができ、さまざまな用途に使うことができます。

■災害用LPガスバルクとは？

地震・津波などの災害が発生したときに、ガスをエネルギーとした炊き出しやストーブによる暖房、ガス発電による軽微な照明の使用、携帯電話の充電が可能となるガス貯槽のことです。

平常時は、厨房での調理・

館内給湯・館内暖房に使用され、タンク残量が半分になると満タンまでガスが供給されます。

常に500kg以上のLPガスが貯蔵されており、外部からの供給がなくても、1週間以上、避難所のエネルギーとして活用できます。

■災害用LPガスバルク設置状況（平成26年8月現在）

- ・驚別地区〔3カ所〕 驚別公民館、富岸小学校、青葉小学校
- ・幌別地区〔4カ所〕 市立図書館、市民会館、しんた21、幌別小学校
- ・登別地区・登別温泉地区〔2カ所〕 市営住宅登別旭団地、登別小学校



しんた21のガスバルク

■市の取り組み～防災資機材の整備～



のぼりべつ文化交流館（カント・レラ）の災害時備蓄品



「災害は忘れた頃にやってくる」と言われます。市は今後も冬季災害にも対応可能な体制づくりを進めていきます。

■物資の備蓄による防災体制の構築

市は、大規模停電を教訓に、庁舎用の非常用発電機を追加整備しました。また、ガスを使用する発電機やガストーブなどの電源供給を必要としない防災資機材を整備し、各避難所への備蓄を進めています。